

「浦和のさかえに 歴史をほこる」開校155周年 YEAR を迎えて



大いちょう

令和 8年 2月27日
さいたま市立高砂小学校

高砂小学校だより 令和7年度 No. 11 048 (829) 2737

開校155周年の節目の年から、次の10年に向けて

校長 永山 誉

厳しい寒さの季節から解放され、いよいよ来週から3月。巣立ちの月を迎えます。6年生にとっては、小学校生活最後の月となります。現6年生は、いわゆるコロナ禍での最初の新一年生として入学し、コロナ禍、そしてコロナ後と、激動の時を過ごしてきました。その間、高砂小学校は、開校150周年、そして今年度開校155周年を迎えるなど、大きな節目を経験した学年でもあります。激動の中で学んだ6年間でしたので、多くのことを身に付け、新たな地へ旅立つこととなります。高砂小学校で過ごしたよい思い出とともに巣立つことができるよう、高砂小学校での残り少ない日々を充実させたいものです。

さて、高砂小学校は、開校155周年の節目とともに、新たな局面を迎えることとなります。来年度は、プールの解体が行われ、いよいよ約10年にも渡るリフレッシュ工事の第一歩を踏み出すこととなります。浦和駅西口再開発事業が来年度終了し、それに続いてこれから約10年に渡って行われる建替え事業は、浦和駅西口の姿を大きく変貌させます。街の姿は、時代にあわせて変わっていくものですが、街の姿は変われども、変わらないものは、浦和の街、そして高砂小学校への地域の方々の思いです。器は変わっても、高砂小学校を愛する地域の方々の思いは変わりません。地域に支えられながら今日まで発展してきました高砂小学校を、激動の時代を迎えても、これからも大切にしていきたいとつくづく感じているところです。開校155周年を迎え、来年度は、校舎建替えという大事業の中、次の10年に向けて新たな扉を開いていく、そんな1年になるかと存じます。

ところで、本校が校舎建替えとなりますと皆様が気になられるのが、明治の時代から本校のシンボルとなっています「大いちょう」をどう取扱うかということかと存じます。「大いちょう」につきましては、「高砂小学校施設のあり方検討会」でも十分検討され、工事期間中は養生しながら現在の場所で保存し、現校舎の解体の後、校地内で移設することが可能であることがわかりました。しかし、「大いちょう」の保存のためには、まだまだ解決しなければならない課題もあります。課題を一つひとつ解決しながら、様々な歴史を見つめてきた「大いちょう」を、皆様方の思いを受け止めながら、大切に残していければと考えています。「大いちょう」保存に関しまして、皆様方の御理解と御協力の程、お願い申し上げます。

明日は、開校155周年記念事業の最後を飾る、子どもたちの企画による「学校かくれんぼじゃんけん」が行われます。この企画は、「開校155周年」「建替え」をキーワードに、現校舎での思い出をみんなで作ろうという子どもたちの発想から生まれました。当日は、地域や保護者の方々にもお手伝いいただき、前半・後半の二部制によって実施されます。子どもたちにとって、この高砂小学校で過ごしたよい思い出の一つになってくれればと感じています。御協力いただきます皆様、どうぞよろしく願いいたします。

学校だよりの本年度最終号の発行にあたり、卒業する6年生と各学年の課程を修了する1年生から5年生のお子様の新しい学年での御活躍を心よりお祈り申し上げますとともに、この1年間の保護者並びに地域の皆様の、学校教育への御理解と御支援に深く感謝申し上げます。